

1. 評価結果概要表

〔認知症対応型共同生活介護用〕

平成 22年 3月 31日

【評価実施概要】

事業所番号	0170503882		
法人名	株式会社ケアプロダクツ		
事業所名	グループホーム あじさい藤野		
所在地	〒061-2284 札幌市南区藤野3条4丁目15番60 (電話) 011-594-6860		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成22年 3月17日	評価確定日	平成22年3月31日

【情報提供票より】 (22年 2月 26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 18 年 3 月 3 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 16人,非常勤 2 人, 常勤換算16.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000～50,000 円		
その他の経費(月額)	水道光熱費15,000円、暖房費(11月～3月)14,000円		
敷金	<u>有</u> (家賃一ヶ月分 円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	<u>有</u> (円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	350 円	昼食 350 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (2月 26日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名
要介護3	4 名	要介護4	7 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 81.5 歳	最低 68 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小笠原クリニック札幌病院、ときわ病院、日之出歯科真駒内診療所
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

郊外の丘陵地に位置する住宅地の一角にあり、自然環境に恵まれている。事業所として設計・新築され明るく・開放的で全てバリアフリーとなっている。幸せの輪を広げ、楽しく有意義な時間を共に末永く過ごす「幸輪」という理念の実現を目指し、地域との交流に積極的で、町内会とは合同行事や消防団活動などで連携し、地域における事業所の意義・役割の理解浸透を図っている。年間行事計画により、季節の行楽行事やお祭り、外食や買い物など外出の機会を出来るだけ取り入れて支援している。職員のコミュニケーションが良好で、利用者とは家族のように共に暮らすケアサービスが実践されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回改善課題として挙げられた①地域密着型サービスとしての理念②災害対策、については既に改善に取り組まれている。③職員を育てる取り組み④同業者と交流を通じた向上⑤重度化や終末期に向けた方針の共有、については更に改善されることを望みたい。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価を実施している。しかしながら、全ての職員が評価の意義や活用方法を理解しているとは言えない状態であり、今後は全職員が自己評価及び外部評価を実施する意義を十分理解した上で、具体的改善策を見出すよう期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	3月中には開催が予定されているとの事であったが、外部評価調査日の時点では、今年度運営推進会議は開催されていない。地域に開かれたサービスとして質の確保を図る上でも、省令に則り適切に開催されたい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月利用者個別の広報誌を発行し、行事内容や生活の様子を家族に伝えている。事業所内部・外部に苦情相談窓口を設置し、意見・要望・苦情などを表してもらい事業所運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、事業所敷地内で合同の交流会を春・秋2回開催したり、地域の祭りや盆踊りに利用者も一緒に参加したり、町内の消防団と避難訓練を実施したり、地域住民と積極的に交流し、理解浸透や協力依頼に取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念である「幸輪」に沿い、幸せの輪を広げ地域と共に楽しく・有意義で継続した暮らしの実現を目指したケアサービスの実践を行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時には唱和し、確認と共有を図っている。毎月の会議時や日常的にも理念に触れ、全職員の理解を深めて実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の祭りや盆踊りに参加したり、地域福祉推進委員会との合同行事として、春・秋2回の交流会を企画し、事業所敷地内での焼肉パーティなどを実施した。子供110番の活動から小学生や先生の訪問があるなど、地域住民とは積極的に交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価を実施し管理者によって纏められているが、全ての職員が評価の意義や活用法を理解するまでには至っていない。	○	管理者は、職員の入れ替わりが多い現状のなかで評価の意義や活かし方を全ての職員に伝え、課題改善への取り組みが難しいことは理解できるが、サービスの質の向上や確保の為に努力されることを望みたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3月中には開催が予定されているとの事であったが、外部評価調査日の時点では、今年度運営推進会議は開催されていない。	○	省令により「利用者・市町村職員・地域住民の代表者などで運営推進会議を開催すること」となっている。会議参加者による事業所運営や改善課題への意見・要望をサービス向上に活かしたり、地域の理解と協力を得る為にも会議開催への取り組みが求められる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の管理者連絡会に毎月出席し、区の担当者とは運営上の意見や指導を受けたり、包括支援センター職員が事業所を訪問するなど連携を図りサービス向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個別の広報誌を写真入りで毎月発行し、事業所行事や利用者の生活の様子・健康状態などを家族に伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、来訪時には話し易い雰囲気作りを心がけている。内部・外部に苦情相談窓口を設置し、家族に意見・要望・苦情などを表してもらえるように取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の離職や異動を出来るだけ避ける為に、職員と常に話し合い、傾聴に努めている。コミュニケーションに配慮し良好な職場環境作りを心がけ、利用者が馴染みの職員との安心した暮らしを送ることが出来るように取り組んでいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員はサービスの質向上を認識し学ぶ意欲を持っているが、法人として職員の資質向上に積極的に取り組む体制はまだ整っていない。	○	運営者は職員の質の確保と向上を認識し、全職員に段階に応じた計画的研修受講の機会を設け、サービスの向上に取り組む姿勢が求められる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は区の管理者連絡会に参加しているが、系列内の事業所を始め地域同業者との交流が図られるには至っていない。	○	他事業所との情報交換や相互訪問・ネットワーク作りや勉強会などを通じて、同業者との交流や連携に取り組まれることを期待する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前には、家族・利用者と情報提供や希望などを十分に時間をかけて話し合い、見学して事業所の雰囲気に馴れてもらってから利用開始に至っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の立場になって共感し合い、家族のように支えあって暮らす大切さを理解している。利用者の豊富な経験から学ぶことも多く、生きがいのある日々となるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴や家族からの情報を基に、興味のあることや好き・嫌いなどを把握し、日頃の関わりの中での本人の表情や行動からも、汲み取れるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当の職員を中心にケアプラン会議を毎月行い、日々の観察記録・気付きなどを話し合っって検討し、家族の意見も反映させて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は毎月のモニタリングや介護日誌の経過を確認し、3カ月毎に見直しを行っている。状況の変化に応じたその都度の見直しもしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者個別の外出・通院介助・買い物・外食など要望や状況に応じて柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望するかかりつけ医受診としている。協力医による月2回の往診、定期的な訪問歯科を実施し、入居以前の馴染みの医師の受診希望に応じての通院支援もしている。連携する病院の看護師は24時間対応の体制となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の運営方針で重度化や終末期への対応に取り組んでいないが、契約時には方針を話し合い、利用者・家族の納得を得ている。	○	将来的には重度化し終末期を迎える利用者を支える為に、事業所運営上の問題点などの解決を図り、具体的な指針作りなどに取り組まれることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者を人生の先輩として尊敬し、言葉かけにも配慮して誇りを傷つけることの無い支援を実践している。個人情報保護に関して明文化し、記録等の管理も適正に行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者一人ひとりのペースを把握し、その日の体調や希望に沿って柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事を楽しく・美味しく感じてもらえるように、季節感や年中行事、一人ひとりの嗜好を考慮した献立としている。職員は調理・盛り付け・下膳などで、利用者に能力発揮を促がし、体調や誤嚥などにも配慮して共に食卓を囲んでいた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や夜間以外は入浴時間に決まりはなく、利用者の習慣や希望に沿って対応し、その日の体調も考慮して支援している。入浴チェック表で定期的な入浴への配慮もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴から一人ひとりの得意な事・興味のある事を把握し、出番や役割を持ち楽しみながらその人らしく生きがいのある暮らしとなるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の暮らしが単調なものにならないように、毎日の散歩・買い物その他、行楽行事や外食などの外出の機会を出来るだけ取り入れている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上施錠しているが、日中はユニット玄関がスタッフルームに面して見守りしやすい造りとなっており、施錠はせず見守りを行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災委員会を設け防災点検や課題改善を話し合い、夜間も想定した定期的な自主避難訓練を実施し、消防署による避難訓練も年2回は実施している。緊急時対応マニュアルを作成し、町内会の消防団結成で地域への協力依頼をするなど対策に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量や食事はチェックボードに記録して利用者一人ひとりの特性や体調を把握し、カロリー計算や栄養バランスを考慮した食事を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	新築の建物で全てバリアフリーとなっている。居間・廊下・食堂・浴室・トイレなど明るく適度な広さで清潔感のある共用空間となっている。手作りの壁掛けや飾り物で季節感や潤いのある暮らしとなるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた家具類やテレビ・日用品を持ち込んでもらっている。家族の写真や趣味の品などを飾り、その人らしく自由に落ち着いて過ごすことができる。		

※  は、重点項目。